

宮崎市立大宮中学校の学力向上への取組

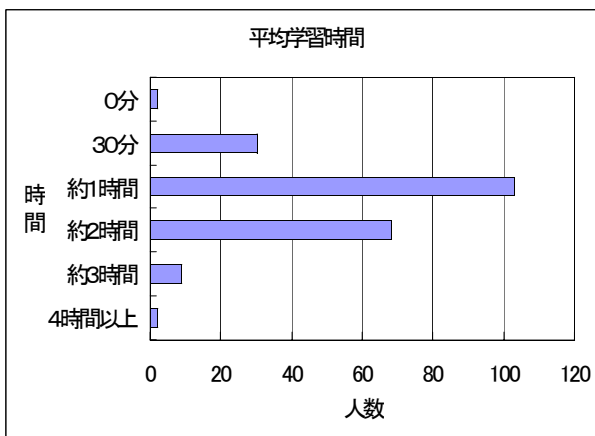
1 学校の概要

平和台公園のふもとに位置する本校は、校区内に県立図書館、県立美術館、県立博物館等を有する学習環境に恵まれた土地にある。しかし、数年前まで生徒指導困難校であり、日常の授業成立もままならない状態にあった。その後の懸命な取組みの結果、現在では落ち着いた環境を取り戻し、様々な場面で生徒の意欲的で主体的な活動が見られるようになった。この状態を維持し、更に発展させることが今の我々の目標であり、責務であると考えている。

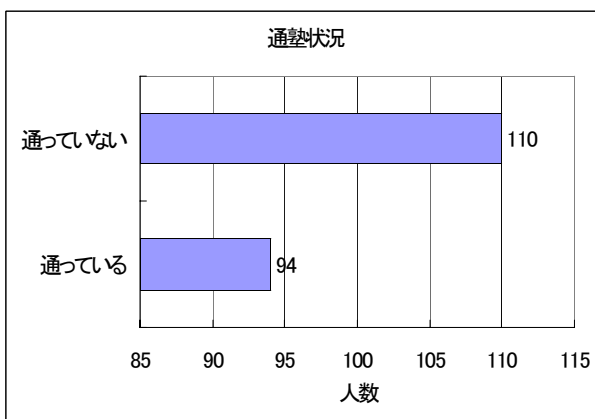
近隣の県立高等学校には、大宮高校、宮崎北高校、宮崎商業高校が、私立高校は宮崎日大高校、日章学園高校がある。毎年約200名の卒業生を輩出するが、100名近くの生徒が大宮高校、宮崎北高校を希望する。

2 生徒の実態

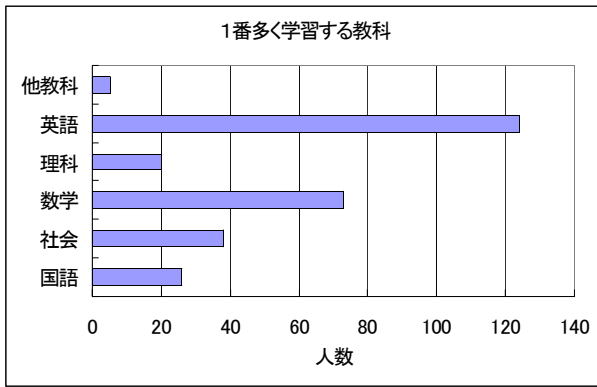
本校第2学年は、10月31日現在で224名の生徒が在籍している。おおむね授業態度は良好である。中学校学力調査の結果の特徴は、学力の二極化が見られることである。また、意識調査結果により、朝食を欠かさず摂ったり、夕食を家族そろって食べる家庭が県平均に比べてやや少ないことがわかった。また、家の手伝いを進んでやる生徒が同様に県平均よりやや低いこともわかった。10月の時点で独自に家庭における実態調査を行った。結果は以下の通りである。



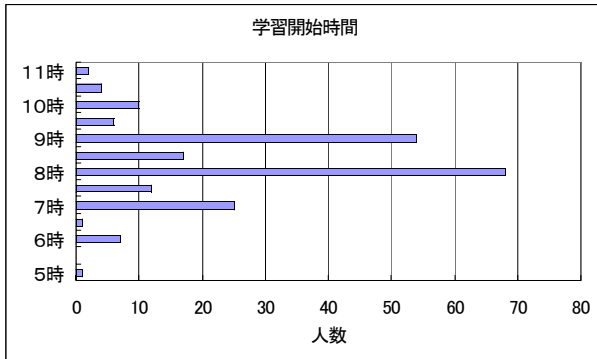
□ 平均学習時間は左グラフの通り、2時間未満の生徒が半数以上である。中には、0時間～30分と全く家庭学習の習慣が身に付いていない生徒もいる。



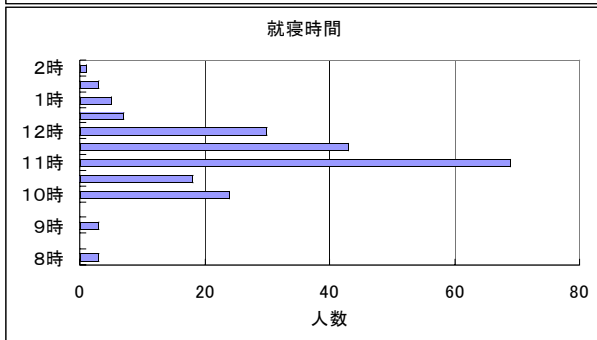
□ 約42%の生徒が通塾している。第3学年になるとこの数が更に増加すると思われる。



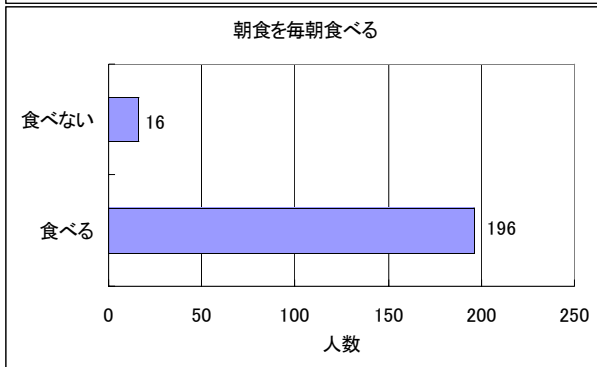
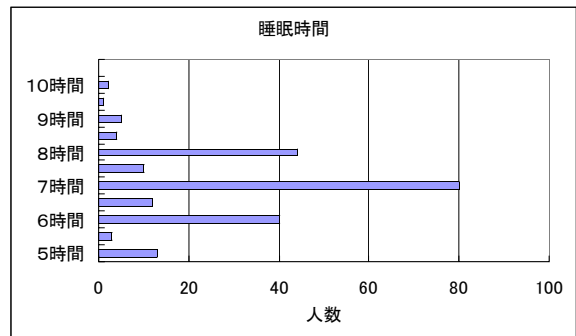
□ 家庭で最も多く学習する教科は、英語で、続いて数学である。しかし、全国学力調査で最も成績の良かった教科は、国語と理科であった。



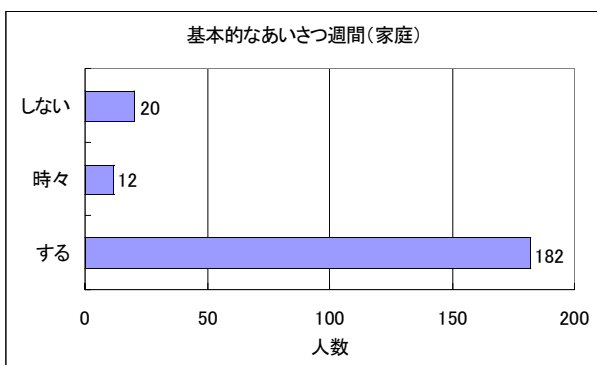
□ 学習の開始時間は、8時や9時からが多いが、10時をすぎて学習を始める生徒もいる。



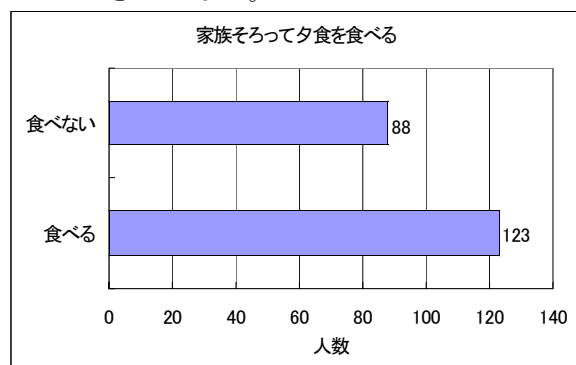
□ ほとんどの生徒が12時までは就寝しているが、1時過ぎまで起きている生徒がおり、睡眠時間も6時間未満の生徒が60名ほどいる。



□ 朝食を食べない生徒が20名弱、授業中の集中力や学力にも影響していると推測される。



□ 家庭での基本的なあいさつの習慣が身に付いていない生徒が30名強、約42%の家庭が家族そろっての夕食を食べることができていない。



3 学力向上に向けた経営方針

「授業が命」の合い言葉の基に、授業成立はもちろんであるが、授業への積極的な参加、発言のあり方、聞く態度、姿勢や目線、机上の整理、忘れ物をさせない等、基本的な授業態度を細かく継続して指導する。また、話す態度や聞く態度のあり方指導については、本校の研究の一環である「情報教育」と絡めて推進していく。

授業を始める際の雰囲気作りのためにも、時間着席を徹底する。学級委員長、学習委員長、生活委員長は3分前に活動を始め、2分前着席の声かけを始める。学級委員長は学級内で全体の掌握を、学習委員長は学習用具の準備を促し、生活委員長は廊下で入室の声かけを行う。また、授業始まりのチャイムが鳴っている間は委員長の号令で黙想をし、落ち着いた授業の始まりを演出する。

一方、「学力向上の鍵は基本的な生活習慣にある。」という方針の基に、学業指導同様に生活指導にも重きを置いて指導する。容儀服装を正すことについては日常的に目を配る。また、良好な人間関係の育成はよりよい授業作りには欠かせないものである。授業と生活指導両面から良好な人間関係作りに努め、お互いを認め合い高め合う環境作りに努める。

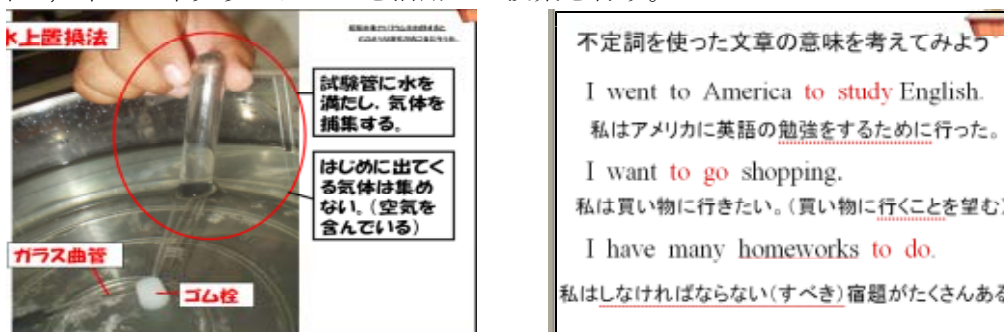
4 教育課程内の取組

(1) 基礎・基本の定着のために

①各教科で確認テストの充実を図り、定期テストで30点以下をとる生徒をなくす。

(2) 「わかる授業」の推進のために

①各教師が、年に1単元以上はITを活用した授業を行う。



②各教科の授業研究会を年1回以上実施する。

(3) 「読み」、「書き」に関する意欲の向上のために

①朝の時間を利用した読書指導と読み聞かせ指導を推進する。



②図書室の本の利用冊数を、第2学年3000冊突破を目指して推進する。

5 教育課程外の実施

(1) 基礎基本の定着のために

①夏期休業中にサマー・スクールを行う。

1回目は、原則として希望者を対象とし3日間行った。しかし、夏期休業前の学習の定着が不十分な生徒は希望していなくても呼び出し指導を行った。2回目は、夏期休業後半で行い、登校日の締切期日に課題を提出できなかった生徒を対象としたコースと、課題テストに向けた学習会コースの2コースを設けた。

6 保護者・家庭、地域との連携

(1) 家庭学習の充実のために

①学年通信を活用した家庭学習サポートを行う。

(2) 家庭学習の充実のために

①各学級の毎日の宅習提出率100%を推進する。

7 成果と課題（次年度の実施を含む）

成果としては、4(2)①の「各教師が、年に1単元以上はITを活用した授業を行う」取組で、生徒の授業への学習意欲が喚起される場面が見られた。各教科によりIT活用が効果的であると認められる単元については、今後もその活用を推進していきたい。また、4(3)①の「朝の時間を利用した読書指導と読み聞かせ指導を推進する」取組により、朝を落ち着いた雰囲気の中で始められるとともに、読書カードの利用により、読書傾向を把握しアドバイスすることができた。読み聞かせは、毎週金曜日の朝に実施している。聞く態度にも注意し、印象に残る言葉をメモしながら聞かせるようにしている。生徒の情操教育にも一役買えるものと期待している。

課題としては、「第2学年は中だるみの学年」といわれる通り、10月実施の調査から家庭学習が不足している生徒が多いことがわかった。学年通信と学級通信を通して現状を知らせ、今後の見通しや対策を伝えていきたい。

4(1)①の「定期テストで30点以下をとる生徒をなくす」は、次年度を含めた長期的なプランで粘り強く取り組んでいきたい。少人数学級を活用したきめ細かい指導の充実はもちろんであるが、学級内の教えあいも強化、推進していきたい。